

- はじめに わたしたちは第1期の札幌文化芸術円卓会議（以下、円卓会議という）による真摯な議論と貴重な提案をふまえて自由な議論を重ねました。  
第1期円卓会議が提起した「市民」と「アーティスト」と「行政」の三者の関係を深める具体策はどうあるべきか。検討した結果、それぞれの拠りどころとなって互いの関係を深め、かつ札幌の芸術を創造、発信する中心的な場が必要との結論に達しました。  
ここにわたしたちはその考え方を示し、基幹となる事業を提案します。
- 芸術の産業化と  
いう着眼から 第1期の円卓会議は札幌の文化行政が多様化、総花化して市民の側から見えにくくなった現状に対して、担い手とその役割を明確にしました。さらに三者をつなぐキーワードとして「芸術の産業化」をおきました。  
産業化とは一見わかりにくい言葉ですが、活発な芸術活動が関連する産業と周辺の消費を刺激する可能性を考えれば、芸術が札幌の地場産業のひとつとして都市の経済を活性化することを想定しているといえます。
- 芸術を札幌の戦  
略的産業に 芸術が札幌の産業として内外の認知が進めば、アーティストや観光客の流入、移住者の増加を通じて自らをさらに発展させることによって札幌の将来を明るく展望することができます。なぜなら、札幌は現状においても国民的な人気をもつ、魅力ある都市とされているからです。  
それゆえ、芸術は札幌の文化と経済発展の戦略を担う主要な一員たりえます。そして、わたしたちの日々の暮らしをさらに豊かにすることでしょう。
- 街の中心にその  
「拠りどころ」を わたしたちは、そうしたプラスの循環を軌道に乗せるために、最良の石を打つべき場所に打つことを提案します。  
皆で、札幌の中心部にアートセンターという仕組みを整備して、市民とアーティストと行政の拠りどころ、協働する場としましょう。  
これは中央区北1条西1丁目という都心の街区に（仮称）市民交流複合施設の建設が検討されている現在、けっして非現実的な提案ではありません。ですが、どんな性格と機能を与えるかについては十分に考える必要があります。とりわけ、だれにとっても敷居の高くない、いるだけで楽しく、いつでも新鮮な芸術に出会える場所にすることが肝心と考えます。
- 多彩な人が集ま  
る自由創造交流  
拠点をつくらう せっかく札幌の中心部につくるのですから、アートセンターは皆に喜ばれ役に立つように働いてもらわなくてはなりません。芸術関係者だけが集まる文化ムラにしてはなりません。  
生き生きとした交流や芸術的な発展が次々と生まれるように、すぐれた経営者（プロデューサー）、人材を発掘して育て、斬新な創造を担う芸術監督、ビジネスや学びをつなぐ専門のコーディネーター、芸術の楽しみを

市民や観光客に優しくお世話する人(アートソムリエ)、自発的に運営に参加する多くのボランティアなど、多彩な人材が集まる自由な創造交流拠点でありたいと考えます。また、大学や専門学校の学生がインターンシップとして働いて単位をとることができるように関係機関に働きかけましょう。

#### 創造と実験に必要なハードウェア(アカデミー・シアターなど)

芸術の創造と実験に必要なハードウェアが欠かせません。時間的な自由を保障された創作や分野をこえたコラボレーションの現場に地の利を生かせるこの場所は、互いに学び成長する研究創造拠点にふさわしいと考えます。完成すれば創造都市札幌に欠かせない中心装置となることでしょう。

芸術・芸能を自由に創造し流通させる札幌の拠点として、使い勝手の良い小規模(200〜300席)のアカデミー・シアターや広場や建物の壁面をうまく使った多機能なギャラリーなどを、皆の知恵と力を集めてつくりましょう。お金がないなら、椅子1席、床タイル1枚の市民株主にもなりましょう。そして、皆で大いにこの場を使いましょう。また、使う人たちをしっかり見守り応援していきましょう。

#### アートのショーケースと情報ステーション

札幌の文化芸術情報がよく見えないという声があります。この円卓会議でも強く指摘されました。ならば、これから市内で開催される文化芸術の情報を映像や実演で簡潔に伝えるショーケースを用意しましょう。

芸術関連の公的助成や企業メセナの情報、注目される内外の動きをわかりやすく提供することも必要です。市民とアーティストと行政のために、情報を集めて適切に流通させる中心的機能を整備していきましょう。

#### サロン、ショップ、ライブラリー

そこは同時に、札幌らしいおいしさや時間のすごし方に出会える、知的でおしゃれな場でありたいと希望します。サロンやショップが隣り合うライブラリーがあるといいと思います。企業も素敵な札幌市民のひとり。活躍する場にしてほしいものです。観光文化都市札幌の中心として皆で盛りあげていきましょう。

#### おわりに 〜人と人の関わりを大切に

わたしたちは、率直に希望を語りあい、そのかたちについて議論しました。そこに一貫して流れた思いは、人と人の関わりを豊かにしてこの街で生きていきたいということでした。

しかし、議論がその先に進むには時間が足りませんでした。たとえば、この街の中心をつくるのが札幌市の10区の中心をつくることにつながってほしいと考えます。また、アートセンターを契機に市民とアーティストと行政の関わりが深まれば、芸術に関する行財政を適切に稼働させるための札幌版アーツカウンシルをどのように設計するかといった課題が現実味を帯びてきます。そんな全市的なネットワークのあり方や今後の政策的課題などについては、次期の円卓会議に託したいと思います。